

まほろばだより

2020
June
vol.33

第33号

～ Center for Diversity and Inclusion ～

● Contents ●

- ✓ 新センター長のご挨拶
- ✓ Report1 国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞受賞
- ✓ Report2 良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」授業実施
- ✓ Report3 女性研究者の留学だより
- ✓ Information1 令和2年度下半期研究支援員配置希望者募集
- ✓ Information2 令和2年度女性研究者・医師支援センター科研費申請推進事業希望者募集



新センター長のご挨拶

嶋 緑倫 (しま みどり)

平成21年1月～令和2年3月 奈良県立医科大学小児科学教授
令和2年4月 奈良県立医科大学副学長・医学部長



令和2年度より、車谷前医学部長の後任として奈良県立医科大学女性研究者・医師支援センターのセンター長を拝命いたしました。今、少子高齢化を背景に医師のマンパワー不足や地域格差などが問題となっています。さらに、働き方改革の波が医療界にも押し寄せています。このような状況の中で女性医師や研究者が活躍できる環境を提供することは必須です。そのためには支援体制の充実はもちろんですが、多様なキャリアに対する医療従事者全体の理解も大切な課題です。奈良県立医科大学女性研究者・医師支援センターは、「優れた女性研究者の育成を図り、もって本学の研究・教育活動を一層活性化させる」ことを目的に様々な活動を行っています。



相談事業では、ライフイベントと就労の両立や様々な悩みに関する相談を行っています。また、研究支援員の配置、女性研究者学術研究奨励賞選考、科研費申請推進事業により研究の活性化に努めています。その他にも医学教育に関する研究、ワークライフバランスや女性の活躍参画状況などの調査研究の結果をHP等、様々なツールで発信しています。研修や講演会などで啓発や広報活動も実施しています。キャリア教育や男女共同参画の理解を深める教育なども教育開発センターと連携して実施しています。今、医学界でも全国的に男女共同参画推進事業が推進されています。女性の教官や指導者も増やせるように、早期から医師や研究者としてのキャリアアップを醸成し、卒業後もつなげていけるようシームレスな支援活動は益々重要と考えます。また、'diversity'を理解して男女共同参画を啓蒙していくことも重要な課題です。このためにも本センターの役割は大きく、これからも皆様からのご意見をお伺いしながら積極的に活動を続けていきます。

最後になりましたが、本センターの活動に引き続きご支援・ご協力を賜りますよう皆様をお願い申し上げます。



令和2年度下半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントが原因で、一定期間、研究時間が十分に取れない女性研究者・医師を対象に研究支援員を配置しています。

令和2年度下半期(令和2年10月～令和3年3月)の希望者募集については7月に案内予定です。制度の利用を検討されている方は女性研究者・医師支援センターへお問い合わせください。

小児科学講座 大西智子先生が国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました

国際ソロプチミストは、職業に就いている女性の世界的な組織で、女性と女児の生活向上のため、奉仕活動を実施されており、国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョンは学業・人材ともに優秀な女性の大学院生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。

この度、女性研究者・医師支援センターからの推薦により、本学小児科学講座の大西智子先生が「包括的凝固/線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固(DIC)の新規診断法確立に関する探索的研究」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を令和2年5月28日に受賞されました。

国際ソロプチミスト奈良—あすかの田中礼子会長、アワード委員会の南本由香里委員長からは、育児や臨床業務と両立しながら学業や研究にも熱心に取り組まれていると高い評価をいただきました。女性研究者・医師支援センターでは、今後も優秀な女性の活躍を応援していきたいと思っております。



良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」授業実施

医学科2年生123名を対象に、女性研究者・医師支援センター教員の須崎マネージャーが、裏山コーディネーター(生物学)と協力し、「ロールモデルを探す」の授業を行いました。本年度は、COVID-19感染拡大防止のため対面による授業ができず、教務システムを用いたオンライン授業となりました。オンライン授業は初めての試みであり、当初、教育効果について不安がありましたが、講演をお引き受けいただいた先生方のご尽力により、実り多い授業となりました。学生たちは来学が禁止されている困難な状況の中、講演資料をもとに自分自身としっかり向き合い、社会情勢をみつめ、若い感性で将来を見据えていることが、下記の課題に対するレポートから伝わりました。創意工夫により、オンライン授業においても高い教育効果を担保できることを実感する良い機会となりました。

●第1回(4月17日)

講演 「私はなぜ開業医と医師会役員という二足の草鞋を履くのか」

奈良県医師会副会長 安東範明先生



課題

- 国民の予防・健康づくりのために特定健診などが行われていますが受診率が低い状況です。その理由の推定と受診率向上の方法を考えてください。
- 自分自身の人生の終末期にはどのような医療を受けたいですか。そのためにはどのような体制づくりが必要でしょうか。
- 近年、高齢者の自動車運転事故が社会問題になっています。どのような対策が必要でしょうか。
- 今後も少子高齢化が進み、独居の高齢者や老老介護がますます増加していきます。医療と介護にどのような問題が生じるでしょうか。どのような対策が考えられるでしょうか。



● 第2回(4月24日)

講演「邂逅と法医学」

本学名誉教授、前法医学教授 羽竹勝彦先生



課題

- 1 自分が1ヶ月後に死亡するとわかった時に、あなたはどのようにして過ごしますか。
- 2 医師は医学的知識や技術を身につける必要がありますが、それ以外に患者と接する場合にどのようなことを身につける必要があると思いますか。
- 3 医師になり、目標に向かって達成しようと思う時に、ただ単に日々を過ごしていても達成しません。どのような日々を送ることが大事だと思いますか。
- 4 医学部に入学して医師という職業を選択したのですが、この選択でよかったと思いますか。

● 第3回(5月1日)

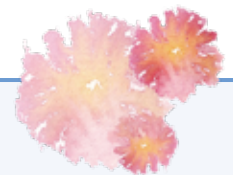
講演「女性研究者・医師支援センターの活動」

女性研究者・医師支援センター マネージャー 須崎康恵先生



課題

- 1 本学医学科学生と臨床研修医を対象とした「キャリア形成に関する意向調査」(平成28年実施)において、将来管理職に就きたいと思う割合が、男子学生では学年が上がるに従い上昇するのに対し、女子学生では高学年になっても変化はなく、低学年から高学年まで一貫して男子学生よりも低い傾向を示しました。同じカリキュラム、医科大学で学ぶ学生の中で昇進意欲に性差を認めることについて、どのように考えるか意見を述べてください。
- 2 医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)では、社会の変遷への対応を含めた「多様なニーズに対応できる医師」の養成を目指しています。多様なニーズに対応できる医師を養成するために効果的と考える学修方法や学修環境を提案してください。
- 3 本学では、第3期中期計画(2019年から2024年まで)において、医学科女性教員割合を20%に、臨床研修医を除く常勤女性医師数を140人に増員する目標を掲げています。目標を達成するために効果的と考える取り組みを考えてください。
- 4 医師の男女共同参画が実現した際に、日本社会全体に及ぼす影響を考えてください。



令和2年度女性研究者・医師支援センターの 科研費申請推進事業の希望者を募集します

女性研究者・医師支援センターでは**昨年度本学から科研費申請を行わなかった**女性診療助教および臨床系女性教員と看護学科女性教員を対象に、今年度も科研費申請推進事業を行う予定です。6月末頃に対象者と所属長それぞれに案内予定ですので、ぜひご応募いただき科研費申請にお役立てください。

〈令和元年度科研費申請推進事業実績〉

昨年度は、臨床系教員3名、看護学科教員4名の計7名が当センターで実施した民間業者によるスカイプを用いた面談や添削支援を受けられました。支援を受けられた7名の女性研究者のうち6名が科研費を申請し、内1名が採択に至りました。



本年度から、海外留学をされた女性研究者・医師の記事を掲載いたします。本学では、過去10年間に海外留学をした教員に占める女性の割合は、わずか7%です。医学部/医学科教員の女性割合は、10年前の18.0% / 11.2%から令和元年度には各々25.4% / 19.4%と増加していますが、海外留学をする女性は依然として少ない状況です。本学医学科2年生のリサーチクラークシップでは、海外の研究施設に留学する女子学生は多く、令和元年度には海外留学生の過半数を超えています。女性研究者・医師の海外留学は、女子学生や後輩への励みとなり、本学における女性活躍推進にも大きな意義をもたらすと考えます。今回栄えある第1号として、5月に帰国された女性研究者・医師支援センターのコーディネーターでもある長井美奈子先生が留学体験を紹介します。

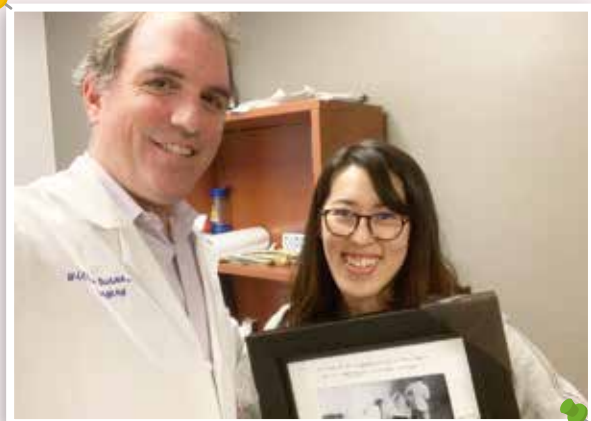
消化器・総合外科学 助教 長井美奈子

日本肝胆膵外科学会が支援する奨学制度(International Observership)に選出していただき昨年7月より膵臓研究・外科で世界一のJohns Hopkins大学に留学させていただきました。Hopkinsでは世界中から集まる膵癌患者の最良・最適な治療方針が外科医・腫瘍内科医・内視鏡医・放射線科医・放射線治療科医・病理医・麻酔科医によるカンファレンスで決定され、数多く進行中の臨床試験へ漏れなく登録されるようシステム化されていました。高難度手術であってもレジデントに多くの手技を行う機会が与えられ、また多くのカンファレンスやレクチャーは、常にレジデントの教育に重点がおかれていました。また世界中から集まる研究者に対しても同様に手厚い指導が行われ、世界一と言われる所以は世界トップクラスの基礎研究、手術件数の他にスタッフのメンターシップ意識の高さにもあるのではないかと感じました。

留学中、Hopkinsの膨大な患者データを利用し進行膵癌に対するAggressive Surgeryをテーマとした臨床研究を行い、研究結果は今後学会および論文発表予定です。思い掛けずアメリカでCOVID-19のパンデミックを経験しましたが、全てが貴重な経験となりました。そしてそこで出会えた人との繋がりが私の財産になりました。改めて、この留学をサポートしてくださった庄教授、教室の先生方、女性研究者・医師支援センターの皆様にご心より感謝申し上げます。



▲ Prof. Wolfgang(中央)の手術見学



▲ メンターのDr.Burnsと私



▲ 研究室のメンバーとアメフト観戦

[編集後記]

新型コロナウイルス感染症対応が長引く中、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆様に、心から敬意を表すとともに、深く感謝を申し上げます。

本年4月から女性研究者・医師支援センターに配置され、今号より編集に加わるようになりました。スタッフの森田です。

女性研究者・医師の活躍を皆さんに是非知って頂きたいと思っています。

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840

奈良県立医科大学 基礎医学棟5階

TEL : 0744-23-8011(直通)

0744-22-3051(代)内線 : 2525

E-mail : jshien@narmed-u.ac.jp

